

福 井 県 医 師 会

だより

第720号 令和3年(2021)6月



奥能登のコムラサキ (クロコムラサキ) : 2020年6月7日 石川県能登町
福井市 左合 直

表紙写真説明：奥能登のコムラサキ (クロコムラサキ) : 2020年6月7日 石川県能登町
福井市 左合 直

柳を食樹とするタテハチョウの仲間で、福井県内にも柳のある河川敷や溪流沿いに生息する。通常は地色や前後翅の中央の帯が褐色だが、劣勢遺伝で地色が黒く、中央の帯が白くなる美しい変異があり「クロコムラサキ」と呼ばれ、奥能登はほぼ100%出現する特異な地域である。また、翅表の青紫の色は構造色のため、光の強さや角度など条件が揃わないとこのように美しく輝かないので、撮影の難しいチョウである。

醫 縫 録

就任のご挨拶

福井大学医学部附属病院長 大 嶋 勇 成



4月1日付で福井大学医学部附属病院長に就任しました大嶋勇成です。紙面を借りましてご挨拶させていただきます。

私は金沢市出身で、1985年に京都大学医学部を卒業し、兵庫県立塚口病院、兵庫県立こども病院で研修しました。京都大学大学院を修了後、1992年から半年間、福井県立病院小児科で勤務し、国立療養所南京都病院で勤務後、3年間、カナダのモントリオール大学附属ノートルダム病院に留学しました。留学中に大学院時代にお世話になった眞弓光文前福井大学学長が福井医科大学小児科教授に就任されたこともあり、福井医科大学小児科にお世話になることとなりました。2010年に福井大学医学部小児科学教授を引き継ぎ、教室を主宰しています。2016年から腰地孝昭前病院長の下、診療担当、次いで経営担当の副病院長を担当してきました。この度、腰地前病院長の任期満了にともない、後任の病院長を拝命しました。

これまで、福井県の小児医療体制検討部会、小児在宅医療推進協議会、#8000子ども救急医療電話相談事業運営協議会、周産期医療協議会、アレルギー疾患医療連絡協議会などで医師会の先生方と一緒に活動させていただきました。特に、学校保健総合支援事業連絡協議会では、医師会より推薦という形で、学校における食物アレルギー対策に参画する機会を得ることが出来ました。そのおかげもあり、県教育委員会による「学校における食物アレルギーの対応手引」の作成にも関わることが出来、厚生労働省のアレルギー疾患対策拠点病院モデル事業に福井大学医学部附属病院が選ばれる理由の一つにもなりました。医師会の先生方のご支援とご協力に感謝申し上げます。

地域医療構想において各医療機関の機能分担を明確にしていくことが求められています。福井大学医学部附属病院は県内唯一の特定機能病院として、高度医療の提供、新規医療技術の開発・評価

を行う役割があることから、高度急性期・急性期医療に特化することになります。高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療、企業治験や医師主導治験に取り組む上で、附属病院の基本理念である「最新・最適の医療を安心と信頼のもとで」を遵守し、医療安全と情報発信、情報公開に努め、医師会の先生方から安心して患者様をご紹介いただける病院を目指し、病棟連携、病診連携を進めていきたいと考えております。

医師の働き方改革への対応が求められています。大学病院医師は、臨床だけでなく、研究、教育にも携わっており、副業・兼業を行っている場合が多く、労働時間が複雑です。教員については裁量労働制を適用していますが、その解釈によっては、主治医になれない、当直ができないことが全国医学部長病院長会議で問題となっています。2024年までに制度設計をするため、大学から外勤医師を受けていただいている施設には労働時間管理についてご協力をお願いすることになるかと思えます。その節はよろしくお願ひ申し上げます。

COVID-19の流行により医療供給体制が問題となっています。当院は、感染症指定病院でないことから当初、非コロナ重症患者の診療を主に担当することになっていましたが、感染拡大時にはCOVID-19の診療にも参画し多くの患者を受け入れてきました。ワクチン接種が開始されましたが、集団免疫効果が期待されるにはまだ時間を要するでしょうし、変異ウイルスの流行拡大により、医療供給体制の問題はしばらく続くでしょう。医師会の先生方と連携協力し、このコロナ禍を乗り切りたいと考えておりますので、ご支援をよろしくお願いいたします。